



置農イノベーション

山形県立置賜農業高等学校教務部 令和3年11月発行

999-0121 川西町大字上小松3723 TEL 0238(42)2101 FAX 0238(42)2103

ホームページ <http://www.okitama-ah.ed.jp> メール yokitama@pref-yamagata.ed.jp



“Plus Ultra” を深く胸に

校長 鈴木 通明

生命あるものの成長や変化を日常的に観察し、「生きるということはどういうことなのか」を無意識のうちに学びとりながら、鋭い感性を育てていくことが本校教育の神髄です。農業教育にはそういう力があるのだということを改めて肝に銘じなければと思うこの頃です。

さて、令和3年度も中盤を迎え様々な動きがありましたが、9月はじめに非常にうれしいニュースが飛び込んできました。本校が、第36回時事通信社「教育奨励賞 優良賞」を受賞したというものです。これは、全国で3校だけが選ばれた名誉ある賞で、これまで本校が取り組んできたゼミ形式の課題研究の地域貢献度がきわめて大きいという評価を受けたことで贈られた賞です。地域の学校としての本校の役割が少しでも果たしていることを実感するとともに、このようなハイレベルの研究活動を展開する本校の指導力やこういった活動を通して徐々に変容していく生徒を心から誇りに思います。今年度も農業クラブ意見発表会での県大会最優秀賞獲得やプロジェクト発表の全国大会出場など、本校の底力を十分発揮してくれています。

部活動における活躍も明るいニュースです。芸術の秋を迎え、本校演劇部が活発に公演活動を行っていることやホッケー部が4年連続22回目のインターハイ出場を果たし、ベスト8という輝かしい成績を挙げたこと、部員数の不足から置賜地区の他の2校と連合チームを組んで出場した野球部が、山形県の高校野球史上初となる連合チームによる県大会出場を決めたことなどは本校生の頑張りを象徴するものだろうと思います。

その他、川西町国際交流協会さんのご協力でマレーシアの高校生とのオンライン交流も始めました。今後、内容をより進化させ交流を継続するとともに、こういった活動を貪欲に追求し、置農生の対話力向上や視野の拡大に挑んでいこうと考えます。

2021年置農祭のテーマは“Plus Ultra”（もっと先へ）です。私は以前からこの言葉を知っていましたが、これをテーマとして採用した生徒を頼もしく思います。この思いを胸に、これまでの栄光に安住せず、次の目標を見据えて前進し続けたいと思います。

新畜舎まもなく完成

昨年度新築された牛舎・堆肥発酵乾燥プラント・資材置き場に続き、鶏舎・車庫と宿泊管理棟が間もなく完成となります。新しい畜産施設で、人も動物も快適に過ごせそうです。



宿泊管理棟



車庫



鶏舎

収穫感謝祭

農場学習の成果として、収穫に感謝する行事を毎年行っています。収穫感謝祭セレモニーでは、農業クラブ会長のあいさつの後、農場報告として各部門代表の生徒が今年度の作柄状況や学習した内容について報告しました。その後、本校産の食材を利用したカレーライスをクラス毎にいただきました。



開会セレモニー



会食準備



生物生産科



園芸福祉科科



食料環境科

置農祭

今年度の置農祭のテーマは、「Plus Ultra ～もっと先へ」プルス・ウルトラはラテン語で「もっと先へ」「もっと向こうへ」「さらなる前進」を意味する言葉となっています。コロナ禍で思うような学校生活を送ることができない状況ですが、逆境に負けず、置農生全員がさらに前進できるような置農祭にしていきたいとの思いが込められています。



置農祭準備



開祭式



クラス企画



ステージパフォーマンス





クラス発表



演劇部発表



吹奏楽部発表



文化部展示



クラス展示



閉祭式

置農祭を終えて

生徒会長 高橋小雪

文化祭お疲れさまでした。今年度は「Plus Ultra」をテーマとし、さらなる前進のために置農生一丸となって頑張ってきました。置農祭成功の裏には、文化行事委員をはじめ、様々な人の苦勞があったことと思います。本当にありがとうございました。

当日は、各クラスとても素晴らしい展示でした。みなさんの協力が垣間見え、心温まる文化祭でした。

生徒会及び、文化行事委員を代表し、運営に携わってくださった皆さんにお礼申し上げます。本当にありがとうございました。



農業クラブ全国大会

伝統の食文化を全国に発信

食料環境科3年 高野瑚々亜（小国中）

新型コロナウイルスが猛威を振るう8月末に、宮城県名取市で開催された農業クラブ東北連盟大会で、私たちはプロジェクト発表Ⅲ類の最優秀賞を受賞しました。この知らせを聞いた時には「奇跡が起きた」としか思えませんでした。あれから2ヶ月が経ち、全国大会に向けた発表練習が続いています。先輩から引き継いだ3年間の研究は集大成を迎えます。「鷹山公が残したむくり鮎の食文化」を全国に発信し、2度目のミラクルを目指します。



**第72回農業クラブ
全国大会（兵庫県）
出場者**

プロジェクト発表会
分野Ⅲ類 食料環境科
高野瑚々亜、青木祥汰
佐藤莉々輝、白田光星
西村明純、原田尚弥

農業鑑定競技会
農業コース
生物生産科 中村元弥
園芸コース
園芸福祉科 竹田真美
土木コース
食料環境科 貝沼拓海

ホッケー部 東北選抜大会優勝 5年連続全国選抜大会出場



全国高校選抜大会東北地区予選会が10月29～31日に川西町総合運動公園ホッケー場で行われ、男子準決勝で岩手の不来方高校に13-0で勝利し、5年連続で全国選抜大会出場を決めた。翌日の決勝では、岩手の沼宮内高校に3-2で勝利しインターハイ予選に続き優勝を決めた。

